

2026年3月25日

令和7年度学位記授与式学長告辞

九州工業大学長 三谷康範

本日ここに、晴れて学位記授与式を迎えられた卒業生、修了生の皆さん。
学位取得、誠におめでとうございます。

皆さんが歩いてこられた道のりには、さまざまな困難や試練もあったことと思います。学部・大学院での学修、研究室での議論や実験、時には失敗から学び、苦勞を乗り越え、仲間と支え合いながら積み重ねてきた努力が、今日という日につながりました。これまでの、そのたゆまぬ挑戦に、心より敬意を表します。

また、今日まで、陰にあって、また折に触れて支えてこられたご家族の皆様、友人の皆様、そして日々献身的に指導してこられた教職員の皆様に、深く感謝申し上げます。卒業生・修了生の皆さんが本日この場に立つことができたのは、周囲の支えがあってこそです。

今年度本学は、学士・修士・博士の学位を一堂に授与する新たな形で式を行っています。学びの段階は異なっても、いずれも自らの問いに向き合い、未来に向けて歩んできた点は同じです。今日ここに集うことで、学びの連続性と多様性、そして九州工業大学という“知の共同体”としての一体感を改めて感じていただければと思います。

本日の式典を行う「九州工業大学記念講堂」は、本学の歴史と精神を象徴する空間です。1959年、開学50周年を記念して建設されたこの講堂は、当時の嘉村平八学長の強い想いと、多くの卒業生や地域の皆様からの寄付によって誕生しました。嘉村学長は、若い世代が学問の尊さに触れ、未来を志す場をつくりたいと願い、その建設を提案されたと伝わっています。

設計は、日本近代建築の巨匠・清家清氏です。扇を広げたように伸びやかに広がる優美な屋根は、本学の象徴的な意匠として半世紀以上にわたり親しまれてきました。また、この講堂では建設後初めての卒業式で、現パナソニック創業者・松下幸之助氏が記念講演を行いました。未来を担う若者への熱いエールは、今もこの空間に息づいているように思われます。

どうか皆さんも、先人たちの思いが込められたこの空間に心を寄せ、「技術に堪能なる士君子」という建学の理念を胸に、今日の日を深く記憶に刻んでください。

皆さんが本学で過ごした年月は、単なる知識の蓄積ではありません。問いを立て、試し、失敗し、学び、仲間とともに乗り越える、その連続だったことでしょう。時代は急速に変化し、生成 AI をはじめとする技術が社会を大きく変容させています。しかし、どれほど技術が進歩しても、現場での葛藤から生まれる洞察、当たり前を疑って課題を乗り越える力、信頼に基づく協働、そして人と人とのつながりが生む創造性は、AI には決して代替できません。それこそが、皆さんが大学生活で培った、これからの長い人生を支える確かな力です。

ここで、学位記について一言申し上げます。学位記は、皆さん一人ひとりの努力と成長の軌跡を示す大切な証です。

とりわけ博士号を取得される皆さんに授与する学位記には、深い学術研究を基盤に、学界や産業界の未来を開く知の担い手としての使命が込められています。

その重みを示すため、博士号を取得された方々には、本年も私からお一人おひとりに直接手渡しいたしました。博士課程で培った、課題を発見し、世界と協働し、社会に新たな価値を創出する力は、これからの社会を牽引する大きな原動力となることでしょう。

そして、学士・修士の学位を手に社会へ羽ばたく皆さんにも、将来の選択肢として博士号への挑戦をぜひ視野に入れていただきたいと思います。学び続ける姿勢は、人生をより豊かにし、社会に新たな価値をもたらします。

本学は、日本の未来を担う核となる研究大学として選定された J-PEAKS の名のもと、現在、社会実装を見据えた研究を強力に推進しています。研究成果を論文に留めるのではなく、現場に届く「解決」へと磨き上げる取り組みです。これは、本学の創立者の安川敬一郎氏、初代総裁の山川健次郎氏が掲げた「産業に資する実学」の精神を継承するものです。

産業界や自治体、地域の皆様との連携によって発展してきた本学の伝統は、今も息づいています。皆さんにも、理論と実践、個の探究とチームの成果を往復しながら、よりよい未来を自らの手で形にしてほしいと願っています。

また本学は、ソーシャルインパクト創出支援事業を通じて、グローバルに活躍する人材育成にも力を入れています。文化や価値観の異なる人々と協働し、ローカルからグローバルへとつながる解決を生み出す力は、これからますます求められます。他者を理解し、対話を通じて信頼を築き、社会に対して責任ある行動を取る勇気を持ち、果敢に挑戦し続けてください。

皆さん、学位の取得はゴールではありません。ここから新たな責務が始まります。専門性を磨き続ける強さ、誠実に社会と向き合う品格を携え、自らの未来を切り拓

いてください。そして母校・九州工業大学は、これからも皆さんの挑戦を支え、学び直し場として扉を開き続けます。私たちは常に皆さんと共にいます。

皆さんの未来が希望と可能性に満ち、輝かしい人生となることを心より祈念し、告辞といたします。

本日は誠におめでとうございます。